

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	17-317	慶應義塾大学 加藤眞三
題名 (原題/訳)		
Who achieves low risk drinking during alcohol treatment? An analysis of patients in three alcohol clinical trials. アルコール治療の間、誰が低リスク飲酒を達成するか？3件のアルコール臨床試験患者の分析		
執筆者		
Witkiewitz K, Pearson MR, Hallgren KA, Maisto SA, Roos CR, Kirouac M, Wilson AD, Montes KS, Heather N.		
掲載誌		
Addiction. 2017 Dec;112(12):2112-2121. doi: 10.1111/add.13870.		
キーワード		PMID:
アルコール依存症 低リスク飲酒		2851128
要 旨		
<p>背景と目的: 低リスクの飲酒がアルコール治療中に可能であること、治療の後にも維持されることがあるという証拠がある。我々の目的は、アルコール依存症として治療を受けた個人の大きいサンプルでの治療の間、低リスクの飲酒の成功者に伴う特性を確認することである。</p> <p>デザイン: Combined Pharmacotherapies and Behavioral Intervention (COMBINE) 研究、Project MATCH (Matching Alcoholism Treatments to Client Heterogeneity) 研究、United Kingdom Alcohol Treatment Trial (UKATT)のデータを統合し、反復計測潜在クラス分析を用いて飲酒のパターンの同定と低リスク飲酒の予測因子を同定する。</p> <p>施設: 米国と英国。</p> <p>参加者: 対象はアルコール臨床試験で治療を受けているアルコール依存症患者 (n = 3589) で、主に男性で (73.0%)、白人 (82.0%)、非結婚 (41.7%) で、42.0 歳 (標準偏差= 10.7) の平均年齢であった。</p> <p>測定: 治療期間中の自己申告による毎週のアルコール消費量は Form-90 を用いて評価され、生物学的確認または副次的な情報提供者でそのことを確かめようとした。</p> <p>所見: 治療の間、飲むことの 7 つのパターンが同定された: 持続的大量飲酒 (全体の 18.7%)、増量する大量飲酒 (9.6%)、大量だがおよび低リスクの飲酒 (6.7%)、大量飲酒と断酒が交替 (7.9%)、低リスクの飲酒 (6.8%)、増量する低リスク飲酒 (10.5%) と断酒 (39.8%)。アルコール依存症重症度が低いこと、ベースラインでの 1 日当たりの飲酒の少ないことは、低リスク飲酒を有意に予測した [例えば、ベースラインより前の各付加的な飲物は、大量飲酒が予想される対低リスク飲酒の確率の 27%の増加を予測した; オッズ比= 1.27 (95%信頼区間 (CI) = 1.10, 1.47, P = 0.002]。社会的ネットワークにおけるより大きな陰性気分とより多くの大酒家は、より重い飲酒パターンを続けるメンバシップの有意の予測因子であった。</p> <p>結論: アルコール依存のために治療を受けている一部の個人では、低リスクの飲酒が達成可能である。低い依存重症度、ベースラインでの飲酒量が少ないこと、陰性気分症状が軽いこと、社会的ネットワークで大量飲酒者が少ないことは、低リスクを達成する確率がより高い。</p>		